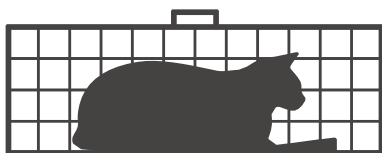


TNR地域集中プロジェクト 完了報告書

2021年度～2022年度



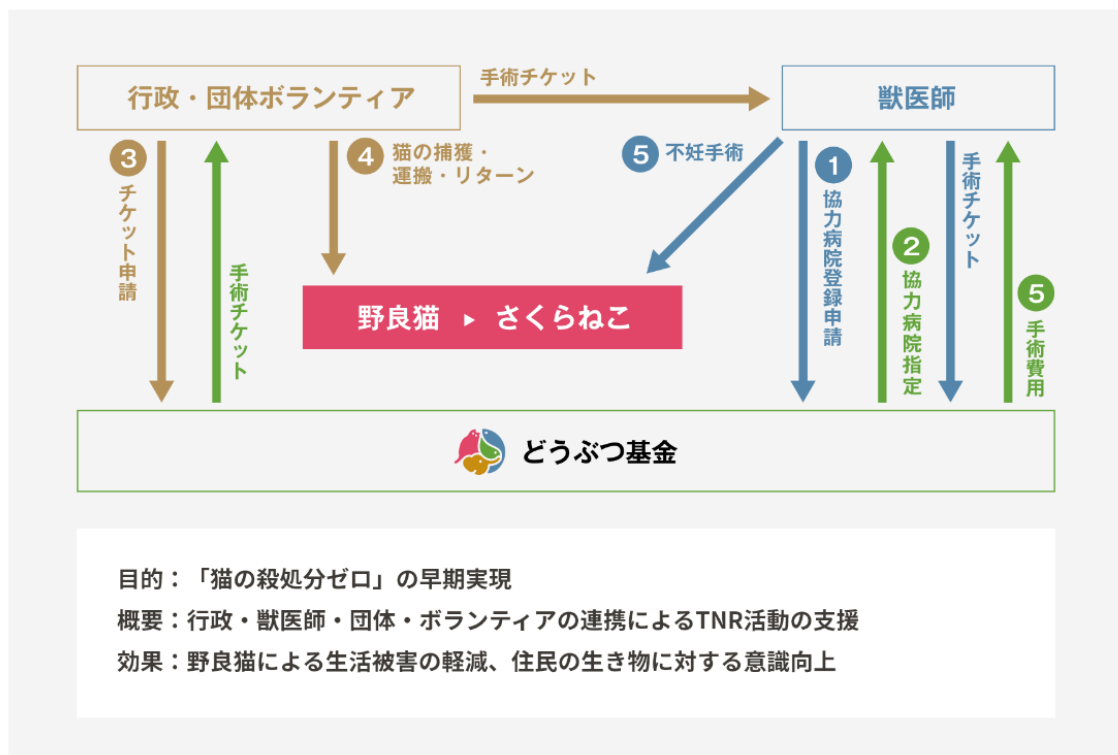
公益財団法人
どうぶつ基金
ANIMAL ACTION FUND

1. プロジェクト概要

1-1. 目的

どうぶつ基金が2005年から動物愛護事業の基軸として行っている「さくらねこ無料不妊手術事業」は、全国の協力病院で使用できる無料不妊手術チケットを発行し、チケットを持って猫を協力病院に持ち込むと無料で不妊手術を受けることができる仕組みです。この事業の趣旨に賛同し、あらかじめボランティア登録を行った自治体、ボランティア団体、個人ボランティアと協働し、毎年5万頭超の飼い主のいない猫が無料で不妊手術を受け、「さくらねこ」へと生まれ変わっています。

さくらねこ無料不妊手術事業の仕組み



しかし、協力病院が不足している地域では、TNRが必要な猫もTNRを行うボランティアも大勢いるのに不妊手術が受けられないという状況が続いていました。そういった地域では猫の繁殖スピードにTNRが追いつかず、その重要性や効果も理解されづらくなります。

「TNR地域集中プロジェクト」は、そのような地域でどうぶつ基金自ら病院を開設し、TNRを集中的に行うことにより、殺処分ゼロの実現とTNRに対する地域の理解促進を目的として、2021年に3地域、2022年度に4地域で実施されました。

1. プロジェクト概要

1-2. 実施概要

【2021年度 実施概要】

主催：どうぶつ基金

後援：筑後市、筑後市教育委員会

協力病院：桜森動物病院、moco動物病院、他

参加獣医師数：23名

サポート団体：大阪ねこの会、宮崎ねこの会、一般社団法人リアン

実施地域：

どうぶつ基金病院・大阪（大阪府八尾市）

どうぶつ基金病院・福岡（福岡県筑後市）

どうぶつ基金病院・宮崎（宮崎県国富町）

実施期間：2021年4月～2022年3月

年間手術数：8,425頭（3地域合計）

対象となる猫：野良猫（飼い主不明の猫）、多頭飼育崩壊の猫

処置内容：不妊手術、ワクチン、ノミ駆除、補液

【2022年度 実施概要】

主催：どうぶつ基金

協力病院：桜森動物病院、えぞりすどうぶつクリニック、ろばの子どうぶつ診療所（嶺北分院）、一犬猫病院、swingどうぶつ病院、おおき犬と猫の病院、Happy Tabby Clinic、どらにゃんクリニック、伊丹ねこスペイクリニック

参加獣医師数：福岡15名、宮崎3名、大阪7名

実施地域：

どうぶつ基金病院・大阪（大阪府八尾市）

どうぶつ基金病院・福岡（福岡県みやま市）

どうぶつ基金病院・宮崎（宮崎県宮崎市）

どうぶつ基金病院・熊本（熊本県熊本市）

実施期間：2022年4月～2023年3月

年間手術数：11,848頭（4地域合計）

対象となる猫：野良猫（飼い主不明の猫）、多頭飼育崩壊の猫

処置内容：不妊手術、ワクチン、ノミ駆除、補液

1. プロジェクト概要

1-3. 実施地域の選定について

【2021年度】

協働ボランティア数に対する協力病院の数、過去のチケット申請状況・配布状況などから検討し、以下の条件に当てはまる地域として、大阪・福岡・宮崎の3地域が選定されました。

- ・TNRが必要な猫が多い地域である
- ・協働してTNRを行うボランティアは足りているが病院が不足している

【2022年度】

公募によって、大阪・福岡・宮崎・熊本の4地域が選定されました。

1. 応募状況について

合計8地域（関西2、九州6）より応募があり、うち1地域が継続のご応募でした。九州からの応募が多かった理由は、前年度に福岡県筑後市、宮崎県国富町で「TNR地域集中プロジェクト」が実施され、成果を上げたことが影響していると推察されます。

1地域を除き、自治体単体もしくは自治体とボランティア共同での応募で、思った以上に民間との連携が進んでいる印象を受けました。実施を求める署名や自治体からの公式な要望書が提出された地域もあり、どの応募からも、TNRへの意気込みと猫と共生できる町づくりへの強い気持ちを感じました。

2. 審査・選考について

以下の観点から総合的に審査・選考を行いました。

- ・立地（獣医師やスタッフの移動、周辺地域からの猫の搬送のしやすさなど）
- ・手術会場（広さや形状、手術実施の導線など）
- ・コスト（賃料などの必要経費）
- ・頭数（周辺地域の猫の総数や手術予定頭数など）
- ・その他（過去の取り組み、熱意や意気込みなど）

2021年度 報告 (福岡・宮崎・大阪)

2. プロジェクト 結果報告

2-1. 2021年度 報告

【実施日程】

実施月	福岡	宮崎	大阪
2021年4月	7日～9日	10日～11日 15日～16日	17日～18日
2021年5月	3日～6日	7日～8日 12日～13日	15日～16日
2021年6月	7日～10日	11日～12日 16日～18日	19日～20日
2021年7月	5日～8日	9日～10日 14日～16日	17日～18日
2021年8月	22日～25日	16日～17日 21日～22日	14日～15日
2021年9月	8日～11日	12日～13日 17日～18日	19日～20日
2021年10月	4日～7日	8日～9日 13日～15日	16日～17日
2021年11月	1日～4日	5日～6日 10日～11日	20日～21日
2021年12月	5日～8日	9日～10日 14日～15日	25日～26日
2022年1月	5日～8日	13日～14日 18日～19日	22日～23日
2022年2月	中止（※）	17日～18日 22日～23日	11日～12日
2022年3月	13日～16日	17日～18日 22日～23日	12日～13日

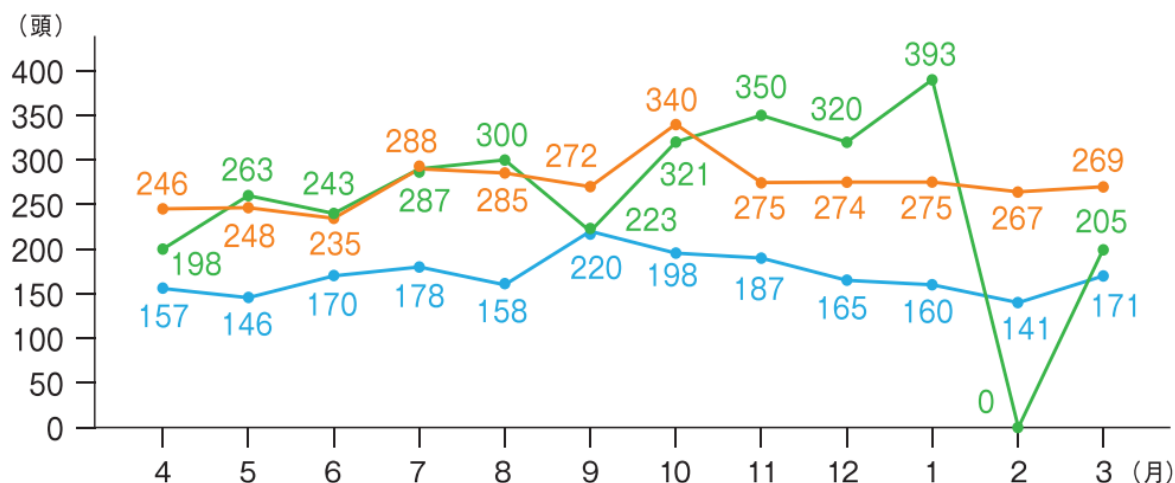
※福岡の2022年2月はコロナウイルスの感染拡大を受けて中止

2. プロジェクト 結果報告

2-1. 2021年度 報告

【各地域の実施状況】

■ 各地域の手術頭数推移（2021年4月～2022年3月） 大阪 福岡 宮崎



（注）福岡の2月実績が0頭になっているのは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となったため。

※上記の頭数には手術会場に搬送されたが、獣医師判断等により未手術となった猫を含む。

■ 各地域の累計手術頭数と平均頭数

	累計手術頭数	平均頭数/月
大阪	2,051頭	171頭
福岡	3,101頭	258頭
宮崎	3,273頭	273頭

2. プロジェクト 結果報告

2-1. 2021年度 報告

【月別・各手術会場の手術頭数】

単位：頭

実施月	福岡	宮崎	大阪	合計
2021年4月	198	246	157	601
2021年5月	263	247	146	656
2021年6月	243	235	170	648
2021年7月	286	288	178	752
2021年8月	300	285	158	743
2021年9月	223	272	220	715
2021年10月	320	340	198	858
2021年11月	350	275	187	812
2021年12月	320	274	165	759
2022年1月	393	275	160	828
2022年2月	中止	267	141	408
2022年3月	205	269	171	645
合計	3,101	3,273	2,051	8,425

※上記の頭数には手術会場に搬送されたが、獣医師判断等により未手術となった猫は含まない。

2. プロジェクト 結果報告

2-1. 2021年度 報告【福岡】

■年間手術数

単位：頭

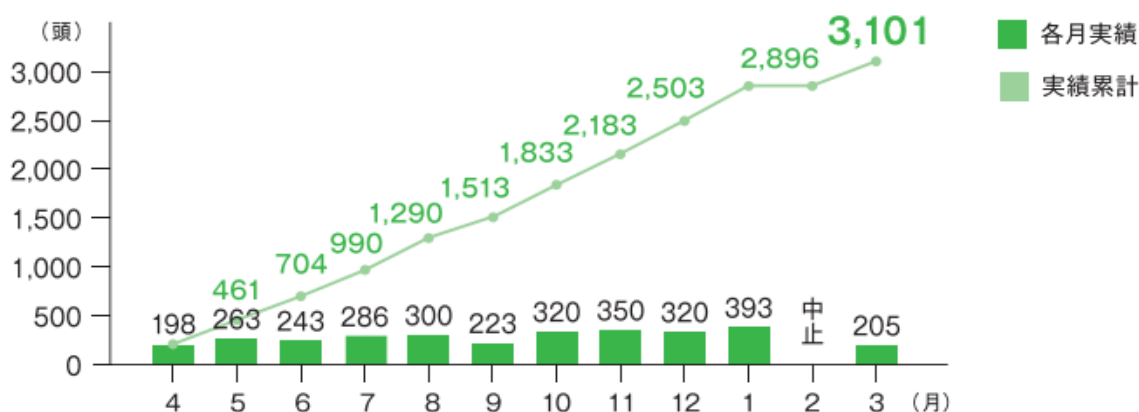
オス	メス	妊娠メス	耳カットのみ (※)	年間合計
1,342	1,428	293	38	3,101

【手術頭数】 3,101頭 【未手術頭数】 4頭（体調等により手術不可と判断されたもの）

【死亡頭数】 1頭 【堕胎数】 936頭

※耳カットのみとは：麻酔後、ワクチン投与・ノミダニ駆除・耳カットをしたが、手術前に不妊手術済であったことが獣医師により確認されたため手術を行わなかった猫のこと。

■手術実績



開始すぐの4月こそ198頭でしたが、それ以降は毎月200頭超（最大時393頭、月平均259頭）が搬送されました。2月は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止、3月も感染対策のため手術頭数を減らしたことで、累計頭数は3,101頭にとどまりましたが、月を追うごとに手術頭数は増加し、福岡県内でのTNRの需要の高さがうかがえる結果となりました。

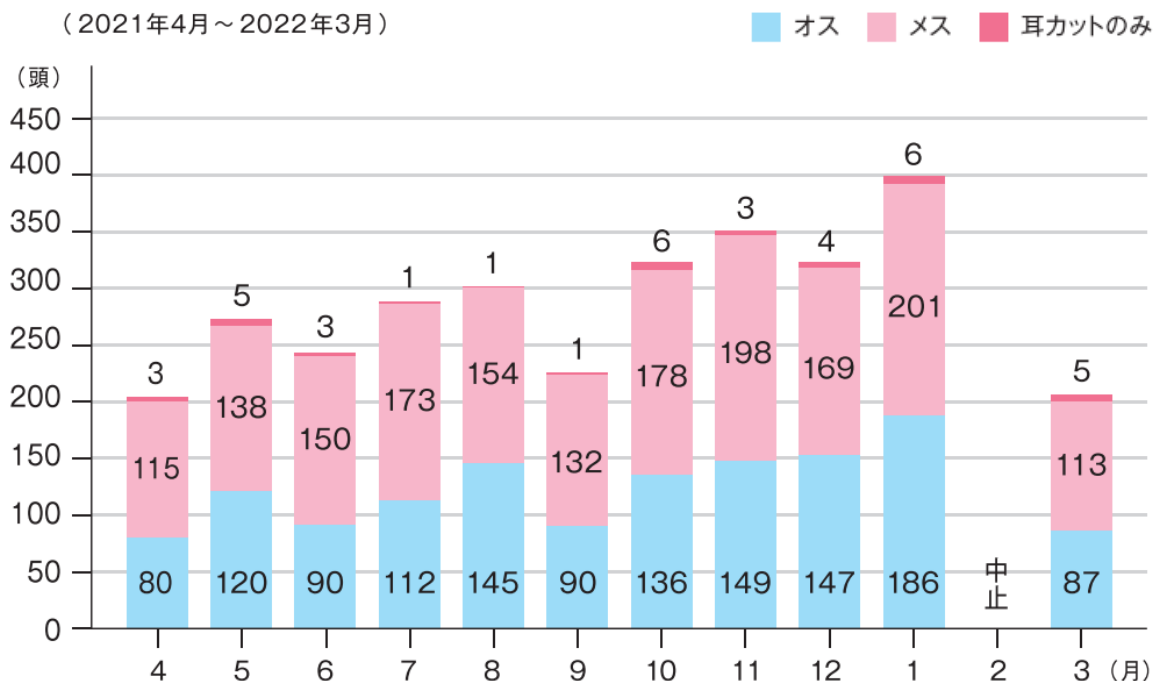


2. プロジェクト 結果報告

2-1. 2021年度 報告【福岡】

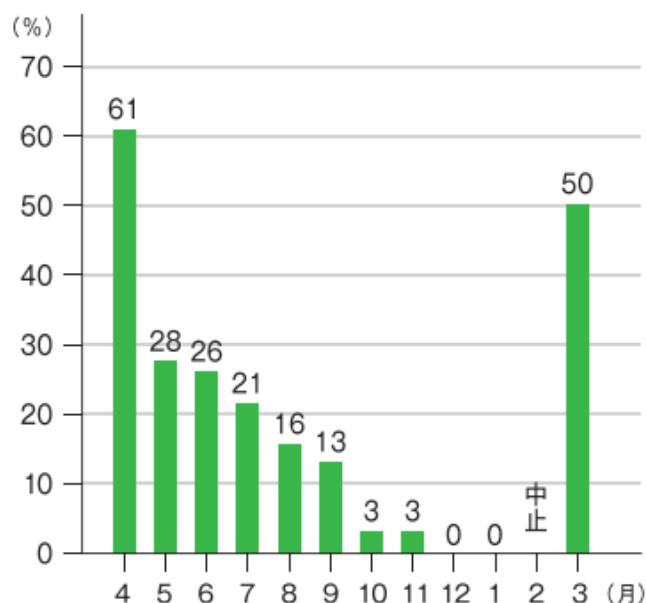
■ オス・メス月別内訳

(2021年4月～2022年3月)



■ 福岡 各月メスの妊娠率の推移

(2021年4月～2022年3月)



3月・4月の妊娠率は50%を超えました。妊娠率の低い冬期にTNRを進めることが重要です。



手術を待つ間に出産した母猫。手術は中止となった。

2. プロジェクト 結果報告

2-1. 2021年度 報告【福岡】

■市町村別・猫の搬送頭数（順不同）

単位：頭

市町村名	搬送頭数	市町村名	搬送頭数
筑後市	395	八女市	762
久留米市	329	那珂川市	118
広川町	141	小郡市	109
柳川市	93	宗像市	82
筑紫野市	77	大野城市	64
みやま市	60	新宮町	34
大牟田市	28	大川市	20
篠栗町	26	下関市 (山口県)	246
南関町 (熊本県)	16	長洲町 (熊本県)	15
一般・団体	490	合計	3,105

福岡は、病院の所在地である筑後市、筑後市教育委員会からの後援を受けてスタートしました。自治体との協働を強く打ち出したことにより、プロジェクト開始以降、多くの地元自治体がどうぶつ基金病院を利用しました。

特に、福岡県ではどうぶつ基金にボランティア登録する自治体が急増。プロジェクト開始前はたった5団体しかなかった協働行政が年度末には25団体に増え、実に5倍増となりました。最初はTNRの効果に半信半疑でも、どうぶつ基金病院を利用した近隣の自治体が成果を上げている様子を目の当たりにすると考え方も変わります。地元ボランティアの呼びかけも功を奏しました。

2. プロジェクト 結果報告

2-1. 2021年度 報告【宮崎】

■年間手術数

単位：頭

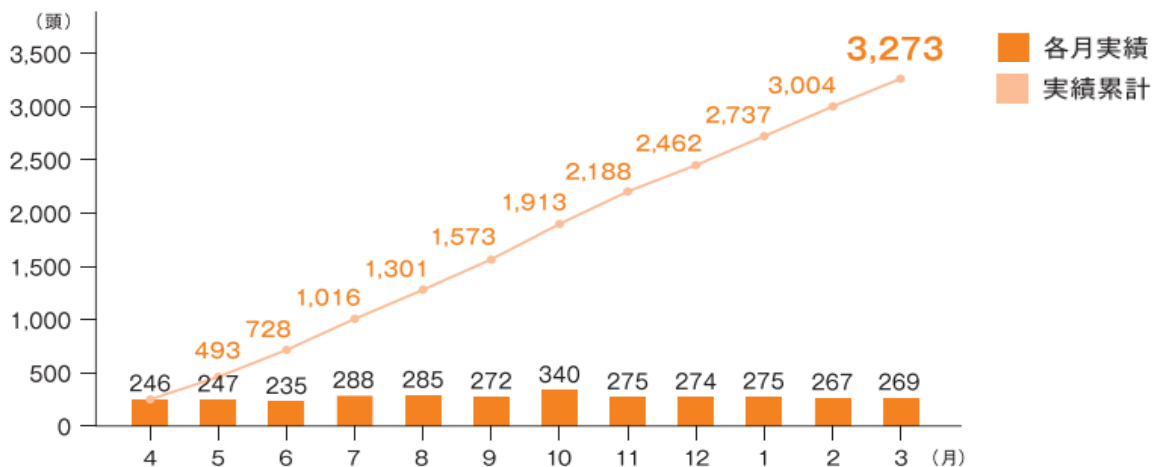
オス	メス	妊娠メス	耳カットのみ (※)	年間合計
1,462	1,445	321	45	3,273

【手術頭数】 3,273頭 【未手術頭数】 3頭（体調等により手術不可と判断されたもの）

【死亡頭数】 0頭 【堕胎数】 1,110頭

※耳カットのみとは：麻酔後、ワクチン投与・ノミダニ駆除・耳カットをしたが、手術前に不妊手術済であったことが獣医師により確認されたため手術を行わなかった猫のこと。

■手術実績



宮崎は、不妊手術頭数が3,274頭（月平均273頭）と3地域のなかで最多でした。チケットの使用率（配分したチケットのうち実際にチケットが使用された割合）も概ね90%前後と高い水準で推移していました。

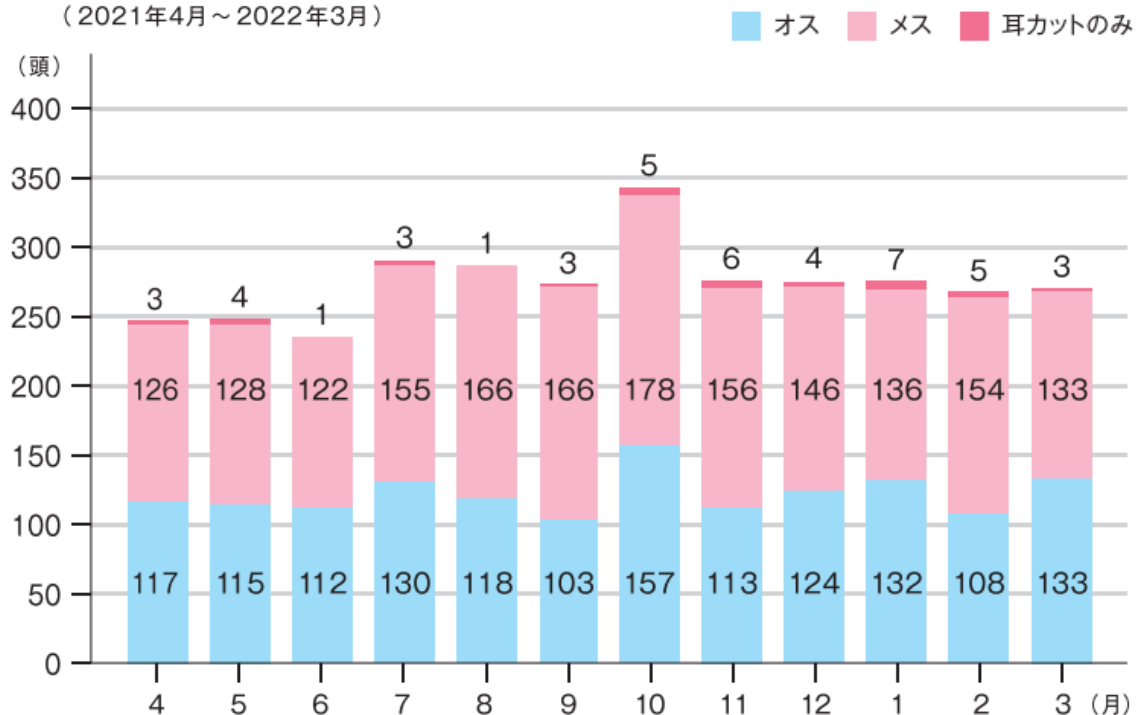


2. プロジェクト 結果報告

2-1. 2021年度 報告【宮崎】

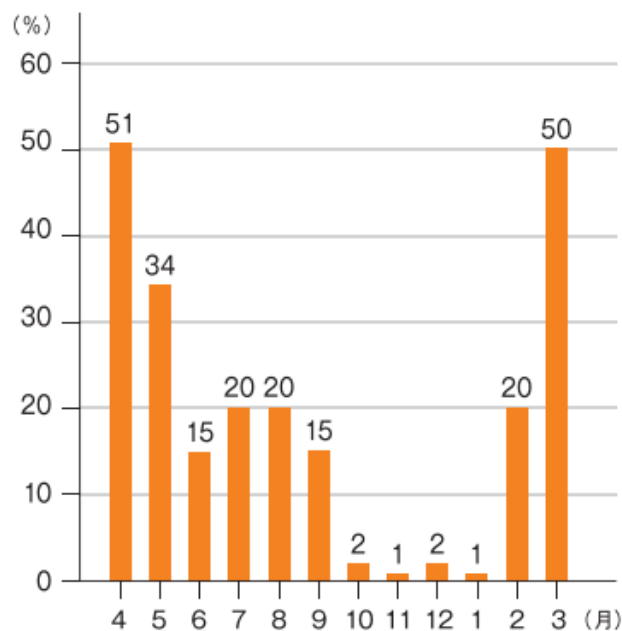
■ オス・メス月別内訳

(2021年4月～2022年3月)



■ 宮崎 各月メスの妊娠率の推移

(2021年4月～2022年3月)



1年を通して妊娠率が0%になることはなく、少数ではありますが、12月や1月でも妊娠している猫が見られました。



2. プロジェクト 結果報告

2-1. 2021年度 報告【宮崎】

■市町村別・猫の搬送頭数（順不同）

単位：頭

市町村名	搬送頭数	市町村名	搬送頭数
宮崎市	890	宮崎市 (多頭飼育救済)	16
日南市	527	日向市	554
高千穂町 (多頭飼育救済)	19	一般・団体	1,270
		合計	3,276

どうぶつ基金病院で不妊手術を受けた猫は3,274頭となり、年間2,000頭という当初の目標を大きく上回りました。動物愛護センターなどで行われている不妊手術数を含めると、県内の不妊手術数は年間5,000件を超え、TNRの促進に大きく貢献することができました。

温暖な気候に恵まれ、1年間で複数回出産する猫も少なくない宮崎県では、ボランティアの努力もむなしく、TNRが猫の繁殖スピードに追い付いていませんでした。本プロジェクトによって1年間で宮崎のTNRは大きく進みましたが、このプロジェクトは言わばTNR促進のための土台作りです。3,274頭のさくらねこが誕生したという成果を無駄にしないためにも、地域全体で自走に向けた取り組みが必要でしょう。



2. プロジェクト 結果報告

2-1. 2021年度 報告【大阪】

■年間手術数

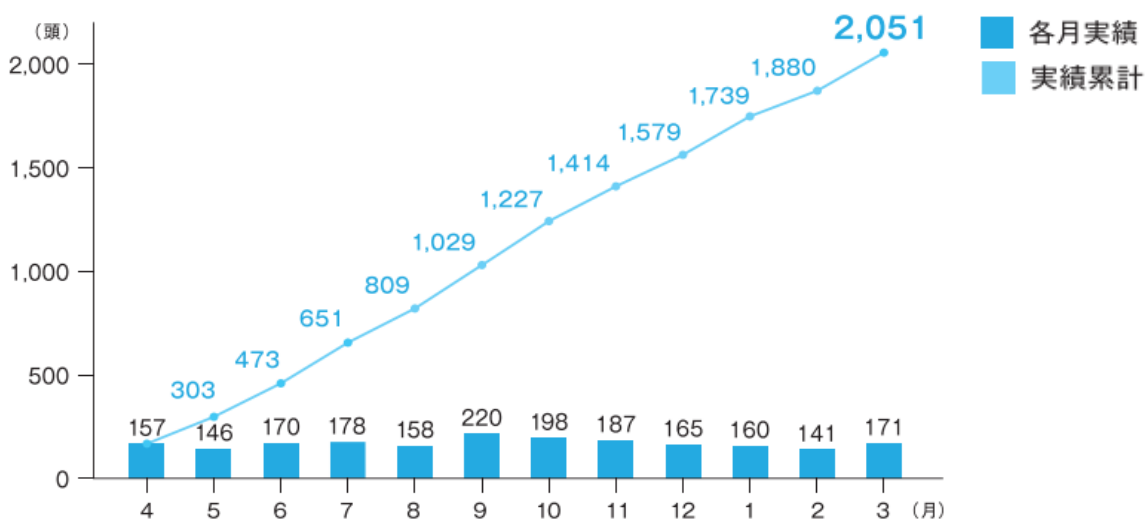
単位：頭

オス	メス	妊娠メス	耳カットのみ (※)	年間合計
970	933	125	23	2,051

【手術頭数】 2,051頭 【未手術頭数】 1頭 【死亡頭数】 0頭 【墮胎数】 517頭

※耳カットのみとは：麻酔後、ワクチン投与・ノミダニ駆除・耳カットをしたが、手術前に不妊手術済であったことが獣医師により確認されたため手術を行わなかった猫のこと。

■手術実績



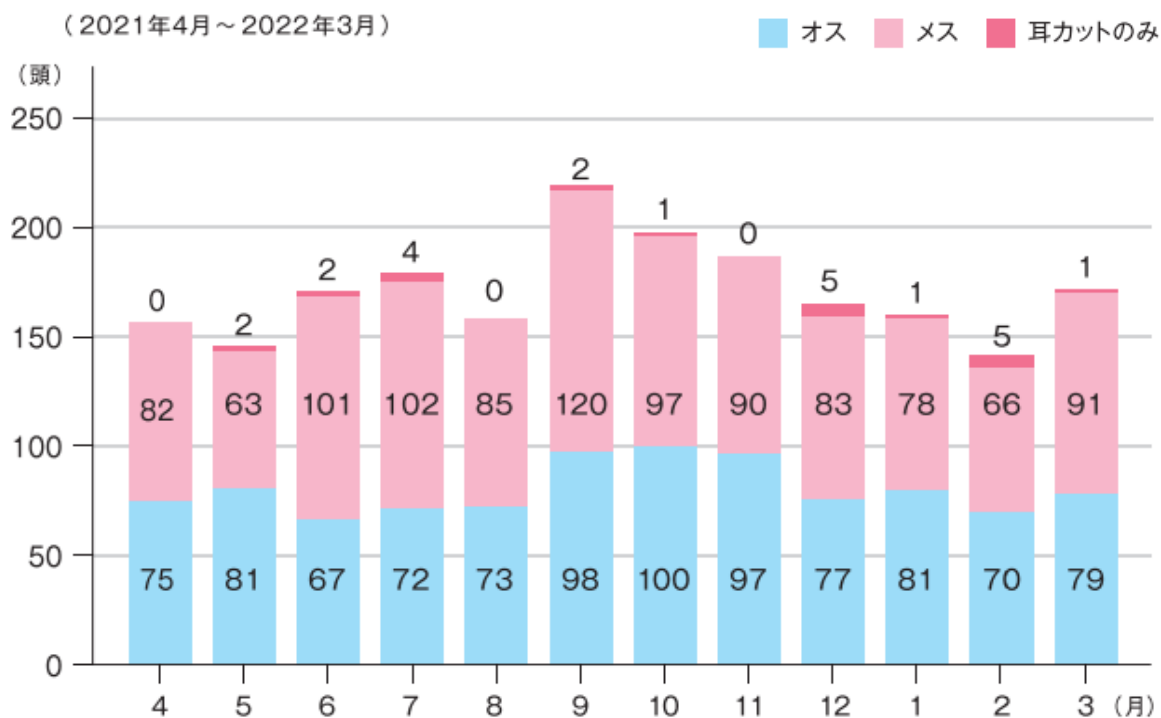
9月以外は200頭を超えることはなく、月平均は171頭でした。TNRが進めば進むほど猫が捕獲しづらくなる…、これがTNRの先進地域でもある大阪が直面している課題です。



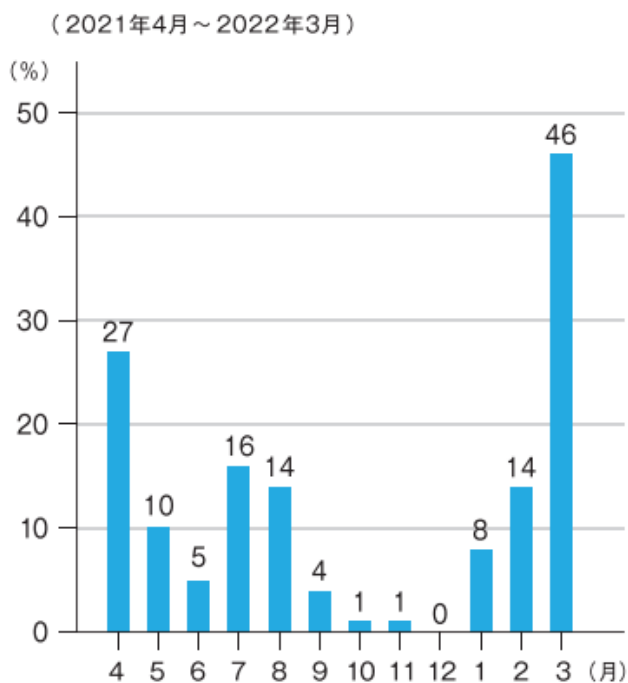
2. プロジェクト 結果報告

2-1. 2021年度 報告【大阪】

■ オス・メス月別内訳



■ 大阪 各月メスの妊娠率の推移



3月、4月の妊娠率がやはり高いです。
繁殖期を迎える前に捕獲をして不妊手術を行うことが重要です。



2. プロジェクト 結果報告

2-1. 2021年度 報告【大阪】

■市町村別・猫の搬送頭数（順不同）

単位：頭

市町村名	搬送頭数	市町村名	搬送頭数
橋本市 (和歌山県)	169	五條市 (奈良県)	37
一般・団体	1,846	合計	2,052

大阪では1年間で2,051頭（搬送は2,052頭）の不妊手術が行われましたが、福岡や宮崎と比べると約1,000頭も少ない数字となりました。なぜこれほどの差が出たのでしょうか？そこには大阪ならではの理由がありました。

大阪は全国的に見てもTNRが進んでいる地域です。それゆえ、他の猫が捕獲される様子を見て学習し、捕獲器に入らない賢い猫が増えているのです。あらゆる方法を駆使して何とか捕獲を試みるボランティアと、「捕まってなるものか」と捕獲の手をすり抜ける猫との知恵比べとなっています。

猫が捕獲しづらくなっている大阪で達成した2,051頭の手術実績は、「殺されるために生まれてくる命を1つでも減らしたい」と、日々寝食を忘れて捕獲に尽力したボランティアがいたからこそその結果です。



2022年度 報告 (福岡・宮崎・熊本・大阪)

2. プロジェクト 結果報告

2-2. 2022年度 報告

【実施日程】

実施月	熊本	福岡	宮崎	大阪
2022年4月	11日～13日	14日～16日	19日～24日	29日～30日
2022年5月	16日～18日	19日～21日	22日～27日	28日～29日
2022年6月	6日～8日	9日～11日	14日～19日	25日～26日
2022年7月	4日～6日	7日～9日	12日～15日 17日	30日～31日
2022年8月	8日～10日	11日～13日	16日～19日 21日	27日～28日
2022年9月	5日～7日	8日～10日	13日～18日	24日～25日
2022年10月	3日～5日	6日～8日	11日～14日 16日	29日～30日
2022年11月	7日～9日	10日～12日	15日～20日	26日～27日
2022年12月	5日～7日	8日～10日	13日～19日	24日～25日
2023年1月	16日～18日	19日～21日	10日～15日	28日～29日
2023年2月	6日～8日	9日～11日	14日～19日	25日～26日
2023年3月	6日～8日	9日～11日	14日～19日	25日～26日

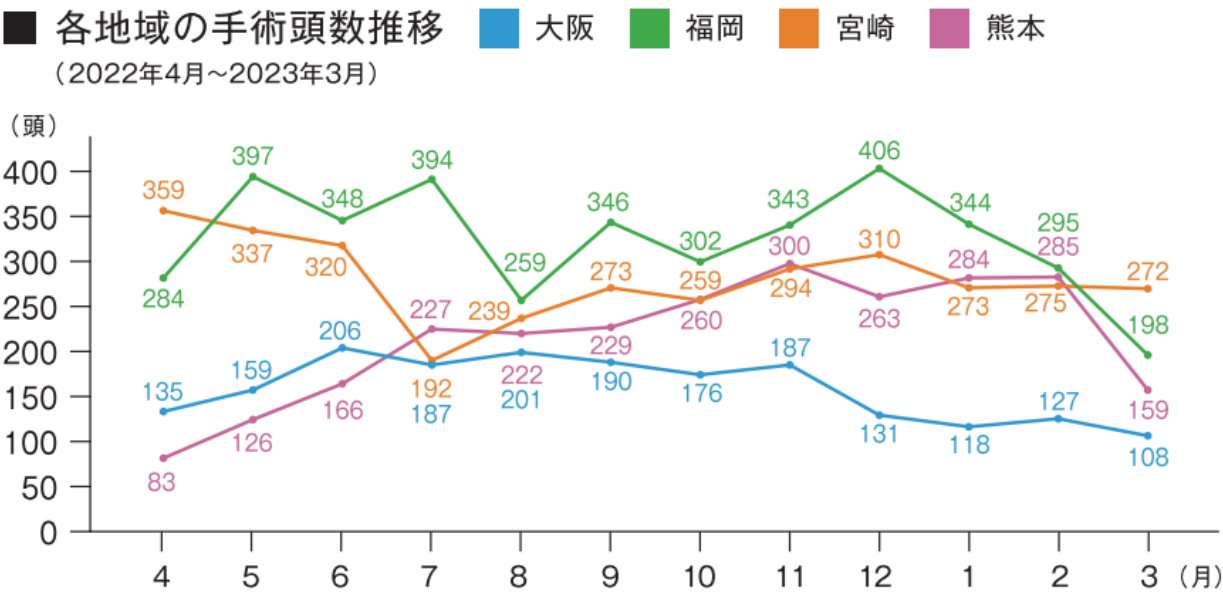
2. プロジェクト 結果報告

2-2. 2022年度 報告

【各地域の実施状況】

■ 各地域の手術頭数推移

(2022年4月～2023年3月)



■ 各地域の累計手術頭数と平均頭数

	累計手術頭数	平均頭数 / 月
大阪	1,925 頭	161 頭
福岡	3,916 頭	327 頭
宮崎	3,403 頭	284 頭
熊本	2,604 頭	217 頭

2. プロジェクト 結果報告

2-2. 2022年度 報告

【月別・各手術会場の手術頭数】

単位：頭

実施月	福岡	宮崎	大阪	熊本	合計
2022年4月	284	359	135	83	861
2022年5月	397	337	159	126	1,019
2022年6月	348	320	206	166	1,040
2022年7月	394	192	187	227	1,000
2022年8月	259	239	201	222	921
2022年9月	346	273	190	229	1,038
2022年10月	302	259	176	260	997
2022年11月	343	294	187	300	1,124
2022年12月	406	310	131	263	1,110
2023年1月	344	273	118	284	1,019
2023年2月	295	275	127	285	982
2023年3月	198	272	108	159	737
合計	3,916	3,403	1,925	2,604	11,848

2. プロジェクト 結果報告

2-2. 2022年度 報告【福岡】

■年間手術数

単位：頭

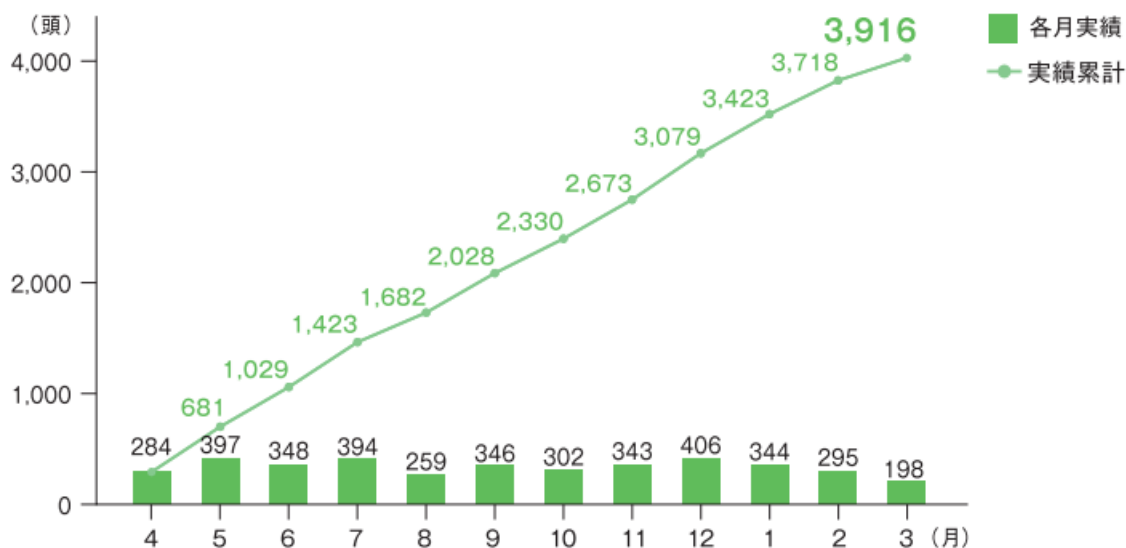
オス	メス	妊娠メス	耳カットのみ (※)	年間合計
1,764	1,770	340	42	3,916

【手術頭数】 3,916頭 【未手術頭数】 3頭（体調等により手術不可と判断されたもの）

【死亡頭数】 3頭 【堕胎数】 1,181頭

※耳カットのみとは：麻酔後、ワクチン投与・ノミダニ駆除・耳カットをしたが、手術前に不妊手術済であったことが獣医師により確認されたため手術を行わなかった猫のこと。

■手術実績



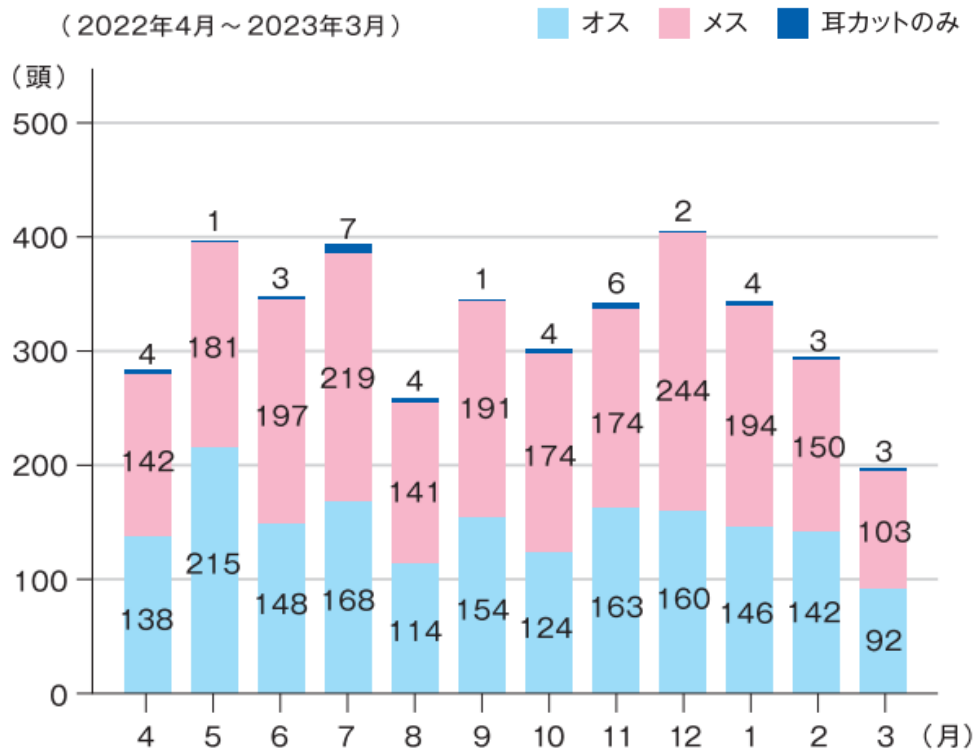
2021年度の月平均は258頭でしたが、会場も広くなり2022年度の月平均は327頭と大幅に増加しました。12月は鳥栖市（佐賀県）が行政枠登録を行い、競馬場の猫を協働でTNRしたことにより400頭を超えた実施となりました。



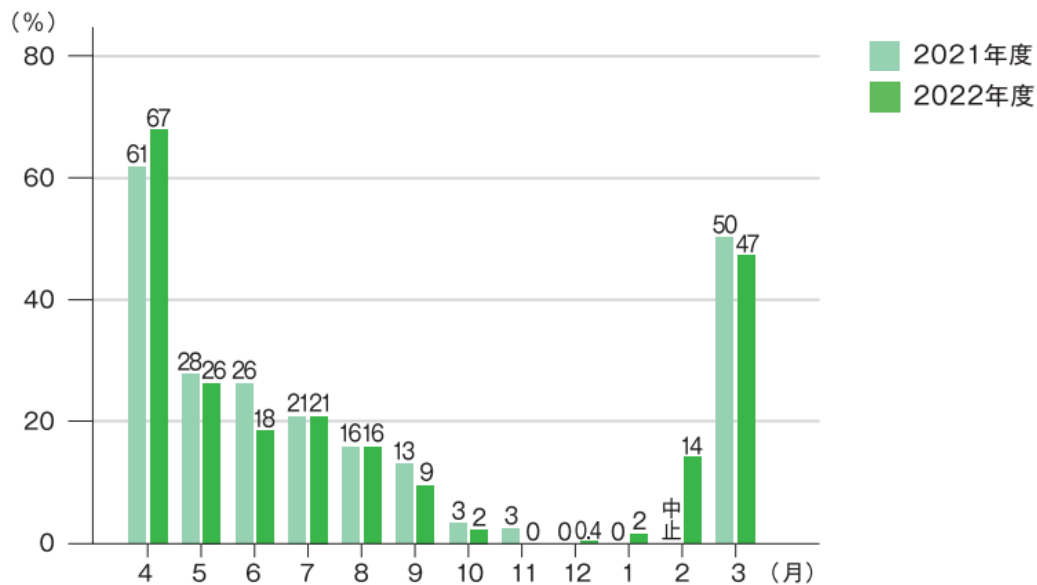
2. プロジェクト 結果報告

2-2. 2022年度 報告【福岡】

■ オス・メス月別内訳



■ 福岡 各月のメスの妊娠率



2. プロジェクト 結果報告

2-2. 2022年度 報告【福岡】

■市町村別・猫の搬送頭数（順不同）

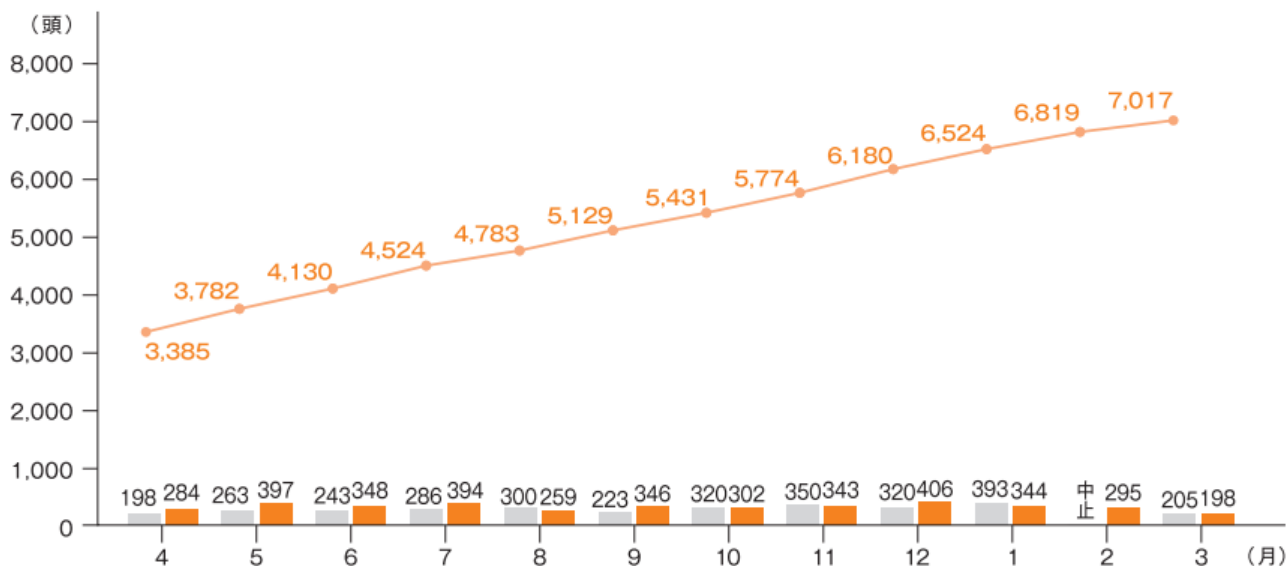
単位：頭

市町村名	搬送頭数	市町村名	搬送頭数
みやま市	393	八女市	383
柳川市	379	久留米市	358
大牟田市	346	筑後市	222
宗像市	221	大川市	144
那珂川市	127	筑紫野市	125
福津市	102	小郡市	91
広川町	82	太宰府市	75
大野城市	70	新宮町	51
飯塚市	19	大刀洗町	18
古賀市	15	芦屋町	12
篠栗町	6	志免町	5
遠賀町	5	下関市 (山口県)	180
南関町 (熊本県)	101	長洲町 (熊本県)	84
荒尾市 (熊本県)	69	鳥栖市 (佐賀県)	89
基山町 (佐賀県)	5	壱岐市 (長崎県)	11
どうぶつ基金	131	合計	3,919

2. プロジェクト 結果報告

2-2. 2022年度 報告【福岡】

■ 福岡 2年間の手術実績 ■ 2021年度 ■ 2022年度 — 実績累計



2022年度は拠点をみやま市に移しての実施となりました。

どうぶつ基金にボランティア登録する自治体が増加し、TNR地域集中プロジェクトみやまには30の協働行政から申請がありました。TNRに積極的に取り組む自治体が増えれば、

さらに殺処分ゼロへの道は近づきます。2021年度の筑後市から2年越しで参加いただいているボランティアも多く、先輩から新入りさんにベテランの技術が継承されるなど、獣医師・自治体・ボランティアの方々のワンチームでスムーズな病院運営が実現しました。

2021年は3,101頭、2022年は3,916頭、2年間の累計は7,017頭でした。福岡では確実にTNRへの理解が進み、継続による効果を実感できたことで関心も高まっています。TNRは継続こそが重要です。今後も地元自治体や地元ボランティアや地元住民が一丸となって取り組むことで福岡の状況は大きく変わるでしょう。



2. プロジェクト 結果報告

2-2. 2022年度 報告【宮崎】

■年間手術数

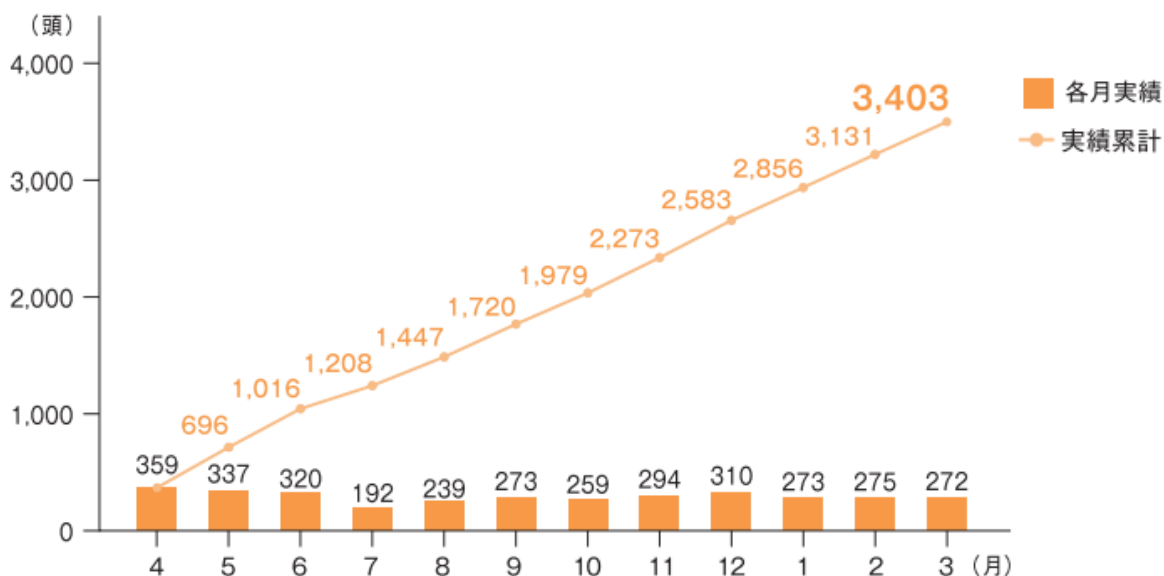
単位：頭

オス	メス	妊娠メス	耳カットのみ (※)	年間合計
1,528	1,503	310	62	3,403

【手術頭数】 3,403頭 【未手術頭数】 0頭 【死亡頭数】 0頭 【墮胎数】 1,146頭

※耳カットのみとは：麻酔後、ワクチン投与・ノミダニ駆除・耳カットをしたが、手術前に不妊手術済であったことが獣医師により確認されたため手術を行わなかった猫のこと。

■手術実績



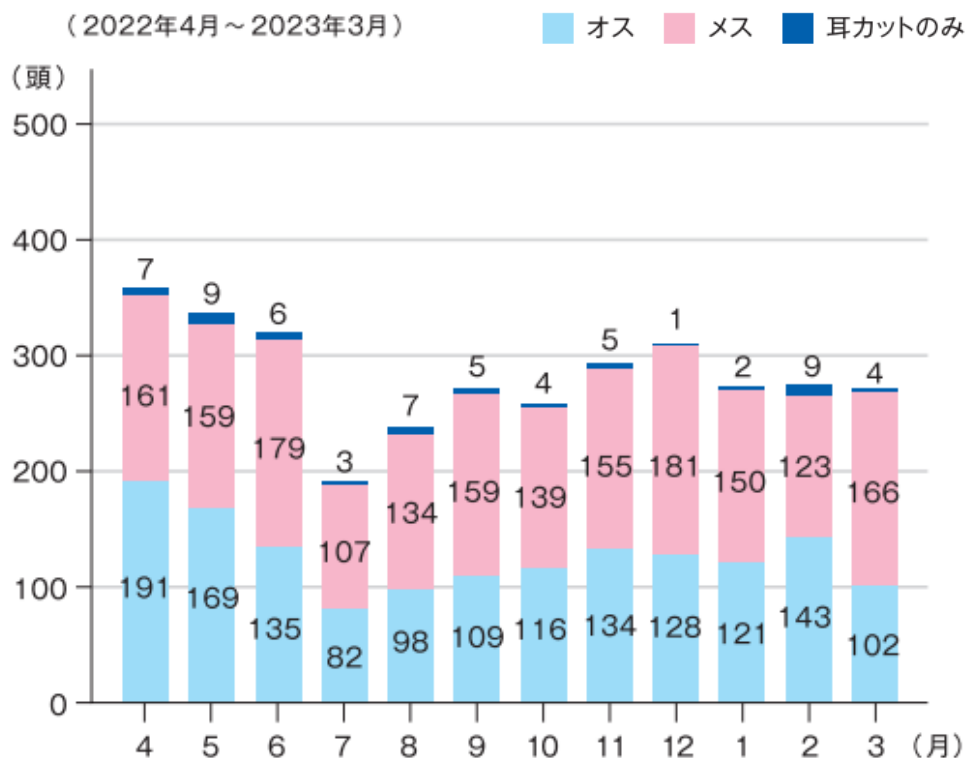
2021年度の月平均は273頭でしたが、2022年度の月平均は284頭でした。プロジェクトの実施期間も2021年度の4日間から6日間に増え、多くの手術を行うことができました。



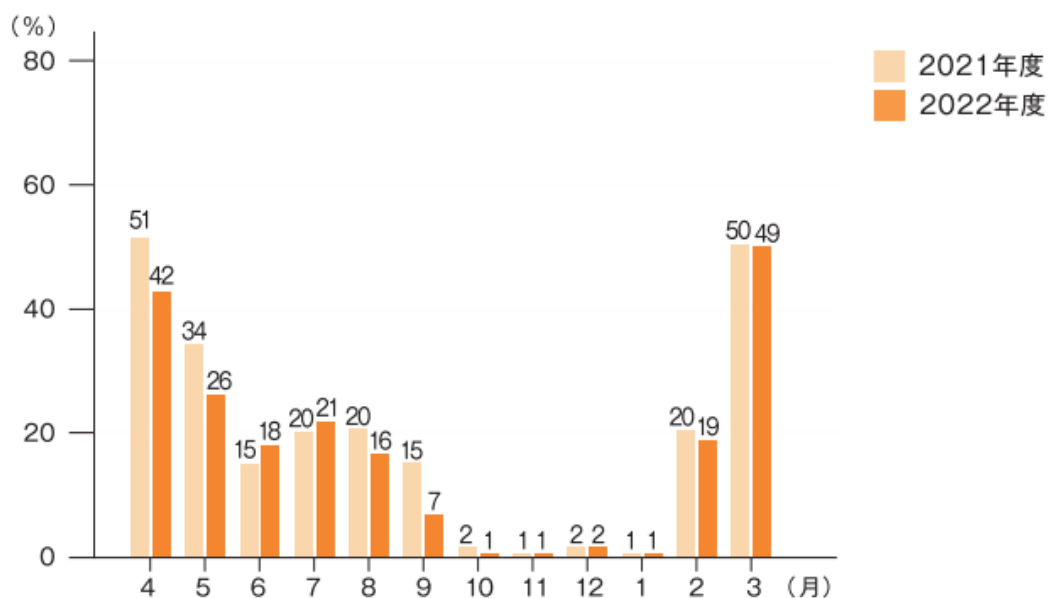
2. プロジェクト 結果報告

2-2. 2022年度 報告【宮崎】

■オス・メス月別内訳



■宮崎 各月のメスの妊娠率



2. プロジェクト 結果報告

2-2. 2022年度 報告【宮崎】

■市町村別・猫の搬送頭数（順不同）

単位：頭

市町村名	搬送頭数	市町村名	搬送頭数
宮崎市	679	日向市	579
三股町	346	三股町 (多頭飼育救済)	15
日南市	325	日南市 (多頭飼育救済)	25
都城市	287	延岡市	257
高千穂町	194	美郷町	118
国富町	100	五ヶ瀬町	63
小林市	58	木城町	32
曽於市 (鹿児島県)	194	サポート団体	131
		合計	3,403

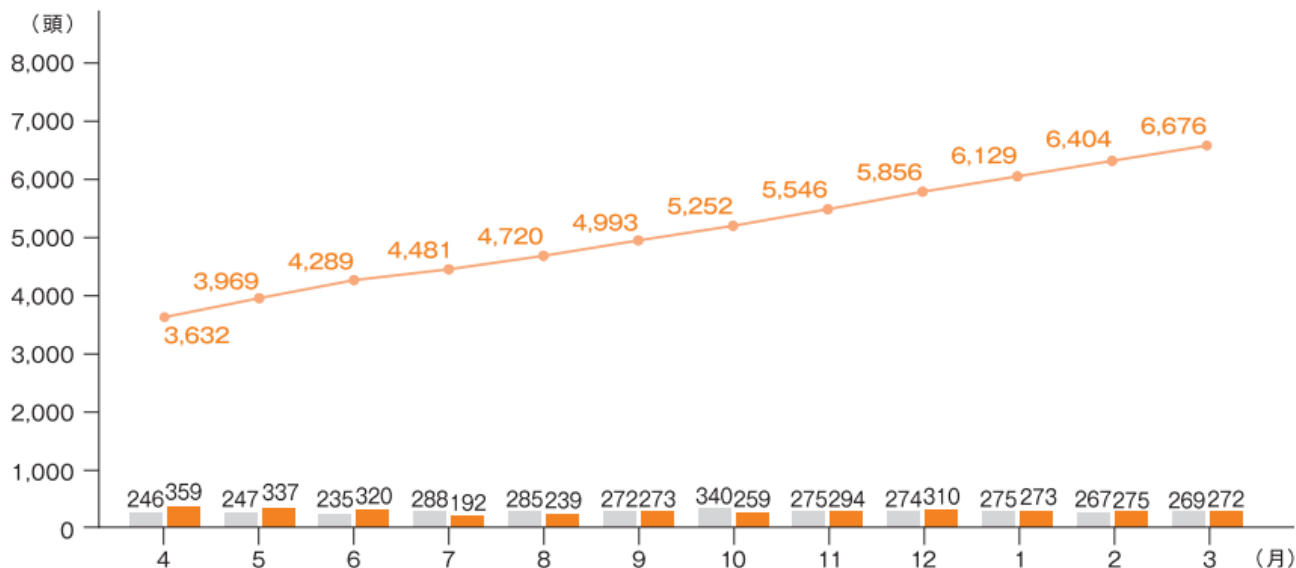
どうぶつ基金病院で不妊手術を受けた猫は3,274頭となり、年間2,000頭という当初の目標を大きく上回りました。動物愛護センターなどで行われている不妊手術数を含めると、県内の不妊手術数は年間5,000件を超え、TNRの促進に大きく貢献することができました。

温暖な気候に恵まれ、1年間で複数回出産する猫も少なくない宮崎県では、ボランティアの努力もむなしく、TNRが猫の繁殖スピードに追い付いていませんでした。本プロジェクトによって1年間で宮崎のTNRは大きく進みましたが、このプロジェクトは言わばTNR促進のための土台作りです。3,274頭のさくらねこが誕生したという成果を無駄にしないためにも、地域全体で自走に向けた取り組みが必要でしょう。

2. プロジェクト 結果報告

2-2. 2022年度 報告【宮崎】

■ 宮崎 2年間の手術実績 ■ 2021年度 ■ 2022年度 — 実績累計



どうぶつ基金病院宮崎では、休日返上で従事する行政職員の方々の姿を拝見することができました。積極的に取り組む自治体が増えることで、さらに殺処分ゼロへの道は近づきます。

宮崎市では2023年度から宮崎市動物愛護管理センターで1,000頭の飼い主不明猫の無料不妊手術を行うことになりました。TNR促進のための土台作りに、2年間の宮崎でのTNRプロジェクトが大きな役割を果たしたことを実感します。



2. プロジェクト 結果報告

2-2. 2022年度 報告【大阪】

■年間手術数

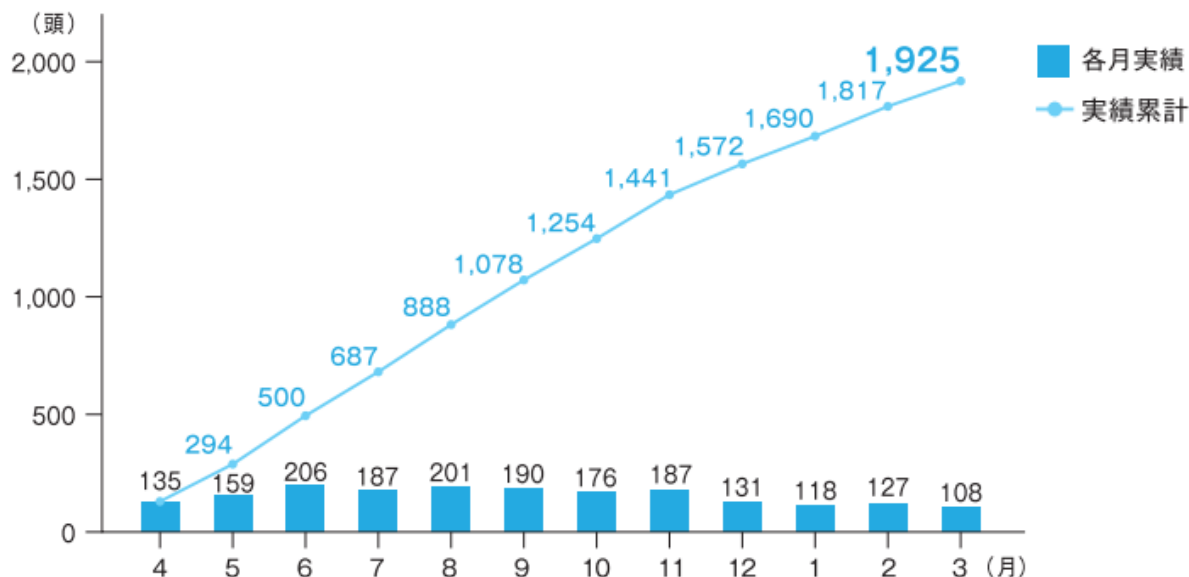
単位：頭

オス	メス	妊娠メス	耳カットのみ (※)	年間合計
882	893	134	16	1,925

【手術頭数】 1,925頭 【未手術頭数】 0頭 【死亡頭数】 0頭 【墮胎数】 533頭

※耳カットのみとは：麻酔後、ワクチン投与・ノミダニ駆除・耳カットをしたが、手術前に不妊手術済であったことが獣医師により確認されたため手術を行わなかった猫のこと。

■手術実績



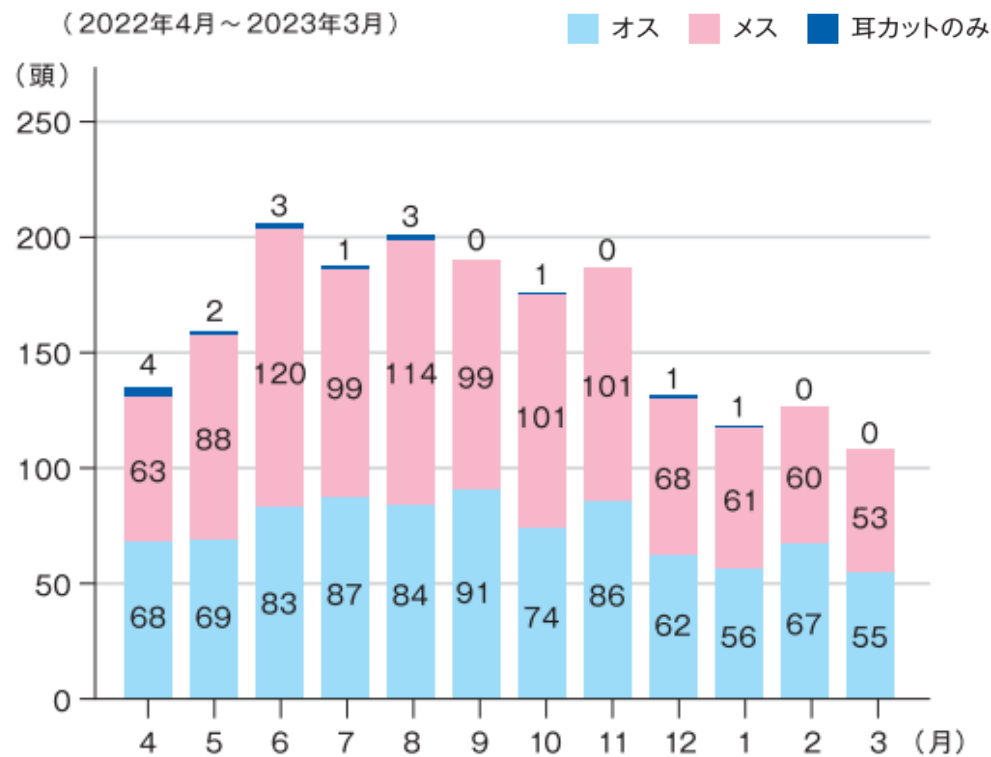
2021年度の月平均は171頭でしたが、2022年度の月平均は161頭でした。実施地域の中で少ない頭数ですが、2日の実施期間や天候に恵まれなかった影響などが考えられます。



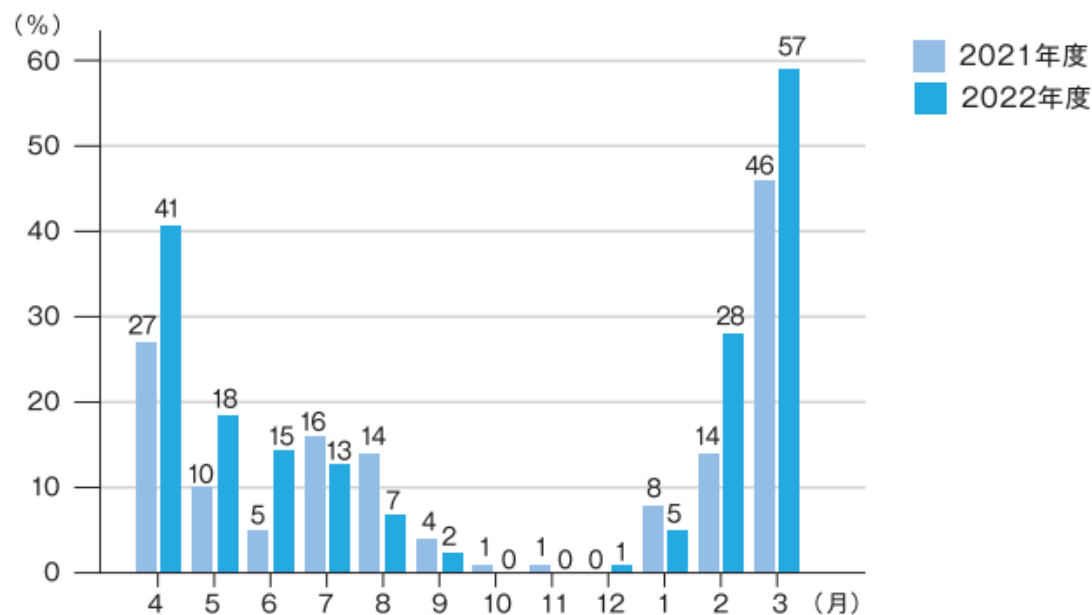
2. プロジェクト 結果報告

2-2. 2022年度 報告【大阪】

■オス・メス月別内訳



■大阪 各月のメスの妊娠率



2. プロジェクト 結果報告

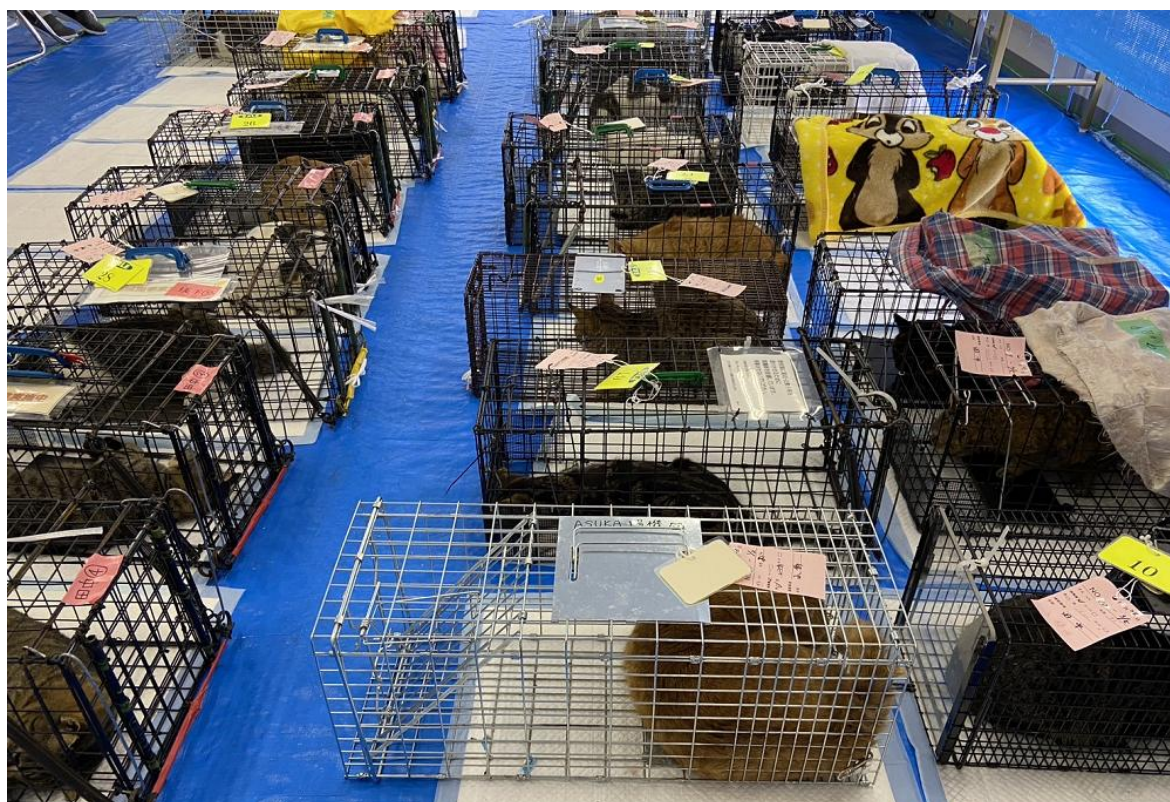
2-2. 2022年度 報告【大阪】

■市町村別・猫の搬送頭数（順不同）

単位：頭

市町村名	搬送頭数	市町村名	搬送頭数
橋本市 (和歌山県)	170	五條市 (奈良県)	231
サポート団体 (大阪ねこの会)	463	一般・団体	1,061
		合計	1,925

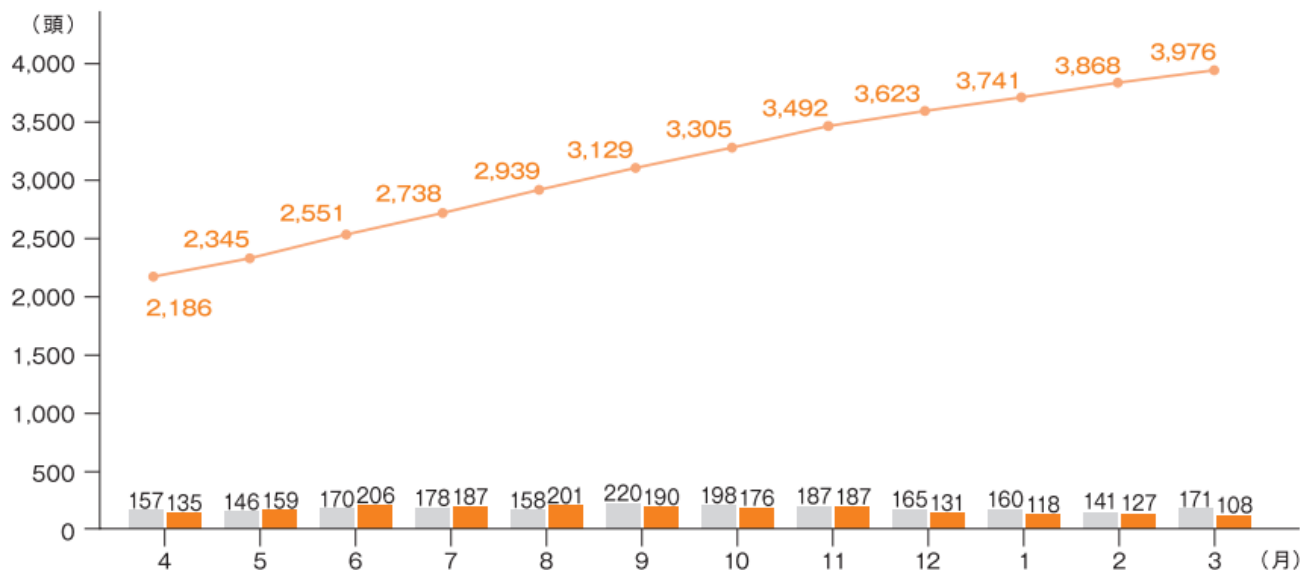
2021年度、2022年度と大阪でも2年連続でプロジェクトが実施されましたが、利用した自治体は2市のみ、かつ大阪府ではなく近隣の和歌山県と奈良県の行政でした。TNRが進んでいる大阪府では、個人や団体でのボランティア活動が盛んです。それはとても心強いことですが、ともすれば自治体は民間に任せきりとなります。それが大阪府の実情でもあります。



2. プロジェクト 結果報告

2-2. 2022年度 報告【大阪】

■ 大阪 2年間の手術実績 ■ 2021年度 ■ 2022年度 ● 実績累計



2021年は2,051頭、2022年は1,925頭、2年間の累計は3,976頭でした。

大阪の日程はたった2日間。そして2022年度はプロジェクトの前日に雨が降ったり、10年に一度の寒波がやってきたりと天候に恵まれない月も多くあり、捕獲が困難な状況が多くありました。そのようななかで4,000頭近くの成果をあげることができたのは、獣医師、ボランティア、自治体など関係者が志を共有し、それを形にできたからに他なりません。今後、大阪では自治体がどのように飼い主のいない猫の問題に関わるかが重要となってきます。積極的な関与を促すためにも、本プロジェクトはよい事例になったと考えています。



2. プロジェクト 結果報告

2-2. 2022年度 報告【熊本】

■年間手術数

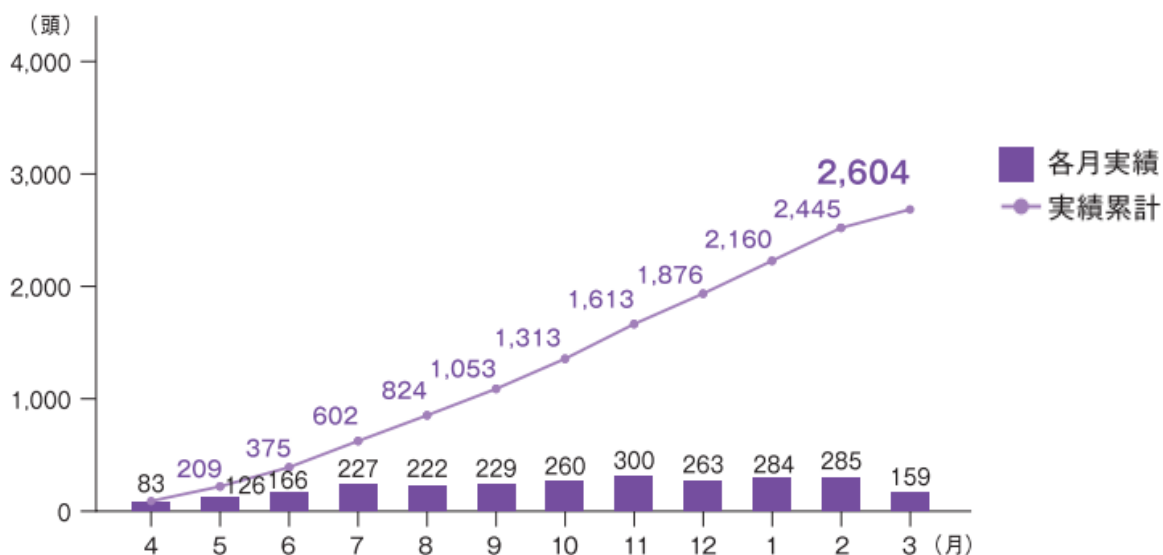
単位：頭

オス	メス	妊娠メス	耳カットのみ (※)	年間合計
1,231	1,164	182	27	2,604

【手術頭数】 2,604頭 【未手術頭数】 0頭 【死亡頭数】 0頭 【墮胎数】 697頭

※耳カットのみとは：麻酔後、ワクチン投与・ノミダニ駆除・耳カットをしたが、手術前に不妊手術済であったことが獣医師により確認されたため手術を行わなかった猫のこと。

■手術実績



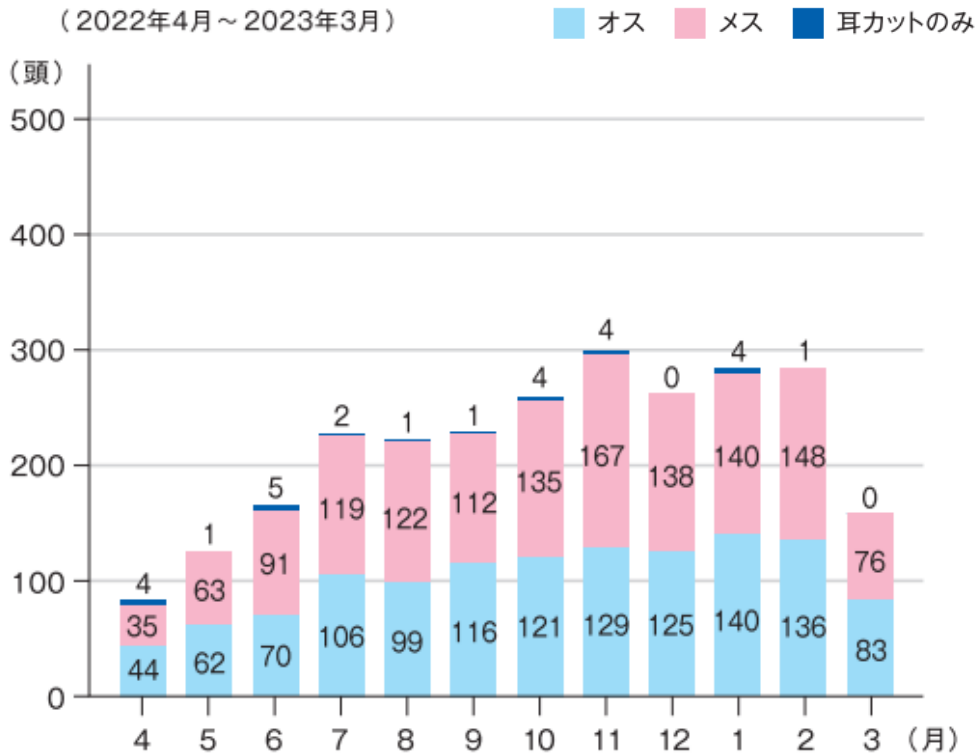
プロジェクトの開始当初はまだ手術頭数が少なかったのですが、山口獣医師による技術指導によって行政獣医師の技術力が格段に上がり、最終的に1年間で2,604頭の不妊手術を行うことができました。



2. プロジェクト 結果報告

2-2. 2022年度 報告【熊本】

■オス・メス月別内訳

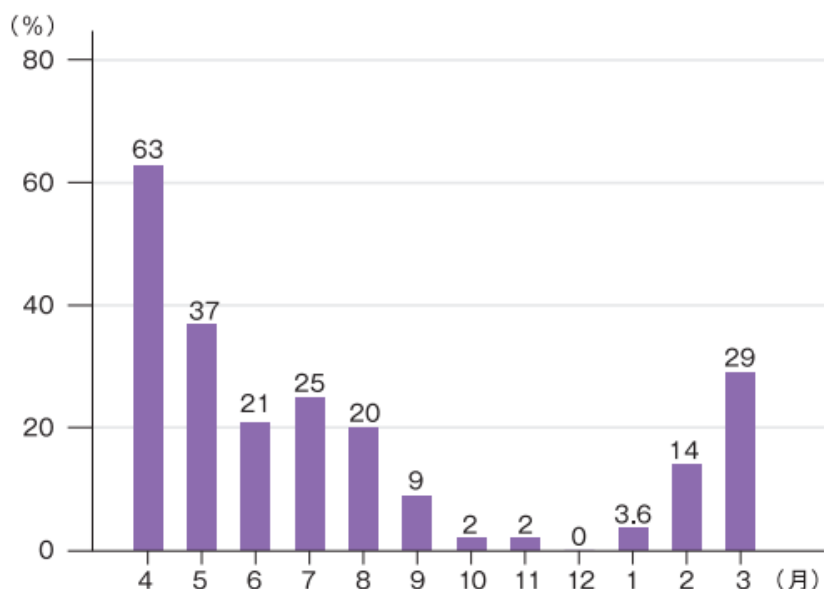


2. プロジェクト 結果報告

2-2. 2022年度 報告【熊本】

■熊本 各月のメスの妊娠率

(2022年4月～2023年3月)



TNR地域集中プロジェクトの公募に熊本市自ら手を挙げて参加が決定し、どうぶつ基金との協働のもと、熊本市動物愛護センター内にどうぶつ基金病院熊本を設立。2022年4月から一年間にわたって、毎月3日間、無料で不妊手術を行いました。

どうぶつ基金の山口武雄獣医師により、熊本市動物愛護センターの獣医師にマンツーマンで技術指導が行われました。これは、本プロジェクト終了後も、市が独自に不妊手術を続けられるようにするプログラムです。この技術指導のプログラムにより、これまで手術の経験がほとんどなかった熊本市動物愛護センターの獣医師は、1人で1日25頭もの不妊手術がこなせるエキスパートになりました。1年間の技術指導を経て、熊本市動物愛護センターは2023年度から自走し、週2回、年間1,500頭を目標として無料不妊手術をスタートさせています。



2. プロジェクト 結果報告

2-3. 2年間のトピックス

■トピック1：自走へのステップアップ－熊本市での技術指導

2022年度のプロジェクト実施地域として公募を経て選ばれた熊本市。

熊本市動物愛護センター内に開設された「どうぶつ基金病院・熊本」では、熊本市動物愛護センターの獣医師への技術指導が行われ、より安心・安全な手技と事業実施のノウハウがどうぶつ基金から熊本市動物愛護センターへ受け継がれました。



プロジェクトによって獣医師の技術力が向上し、事業実施のノウハウを得た熊本市は、2023年度から単独で飼い主のいない猫の無料不妊手術を開始し、2024年度も行われています。

この事業における2023年度のTNR実施頭数は2,345頭（オス1,047頭、メス1,298頭 ※データ提供：熊本市）となり、2022年度に実施されたどうぶつ基金との協働事業と遜色ない実績をあげ、プロジェクトをきっかけに順調に自走化が進んでいます。

熊本市の無料不妊手術事業（概要） ※2024年度時点の情報

熊本市に生息する飼い主のいない猫が対象で、無料で不妊手術とノミダニ予防を受けることができる。手術は熊本市動物愛護センターで月4～5回行われており、事前予約が必要。希望者には捕獲器の貸し出しも行われている。

2. プロジェクト 結果報告

2-3. 2年間のトピックス

■トピック2：宮崎3市の要望書、県民の署名8,269筆がどうぶつ基金に提出される

2022年度の実施地域の公募に際し、宮崎県の3市（宮崎市、日南市、日向市）からプロジェクトの継続を求める要望書が、宮崎県民からは8,269筆の署名が提出されました。



■トピック3：どうぶつ基金病院・福岡で鳥栖市（佐賀県）が競馬場の猫を一斉TNR

佐賀県と鳥栖市で構成する佐賀県競馬組合が運営する佐賀競馬場。敷地内の厩舎に約60頭の野良猫が住みついており、毎年繁殖を繰り返して頭数が増え、一部厩舎による置き餌や猫の糞尿等に困っていました。

今回のプロジェクトを活用し、地元ボランティアと協力して野良猫問題を解決したいと、鳥栖市から全頭不妊手術の要請があり一斉TNRが実現。

74頭の猫が「さくらねこ」になりました。

個人ボランティアと佐賀競馬場が協力しあった結果です。74頭の「さくらねこ」は今後も厩舎の方やボランティアの方に見守られ、穏やかにその生涯を全うします。



どうぶつ基金病院で不妊手術を受けた競馬場の猫

2. プロジェクト 結果報告

2-3. 2年間のトピックス

■トピック4：自治体が積極的に参加、官民協働のかたちがここに（福岡）

福岡は自治体との協働が最も進んでいました。その一例が猫の運搬です。

手術実施期間中、100頭／日もの猫が九州全域から、さらに海を越えて山口県下関市からも自治体職員の方によって公用車で続々と運ばれてきました。

2021年度は新型コロナが猛威をふるい緊急事態宣言が出されるなか、他の自治体に職員を向かわせることには大きな困難があったと思われます。それでも積極的に取り組んでくれた行政には感謝しかありません。このプロジェクトを通して行政とボランティアの間に信頼関係が築かれ、それが今も生き続けています。



（上）猫を搬送していた行政の公用車。自治体職員の方が積極的に参加していました。

（左）下関市が搬送で使用していた公用の動物運搬専用車。ピカピカのステンレスで仕上げられた車内はとても清潔です。山口県から海を渡って運ばれ、「さくらねこ」になった猫は2年間で426頭でした。

2. プロジェクト 結果報告

2-3. 2年間のトピックス

■トピック5：多くの自治体から感謝状が贈呈されました

福岡・宮崎・熊本・大阪で2021年度～2022年度にかけて実施された「TNR地域集中プロジェクト」。このプロジェクトを利用した17の自治体から、どうぶつ基金に対して感謝状が贈呈されました。

感謝状を贈呈いただいた自治体名（順不同）

【熊本県】熊本市、【福岡県】筑後市・みやま市・八女市・柳川市・広川町・大川市・大牟田市
【宮崎県】宮崎市・延岡市・五ヶ瀬町・日南市・高千穂町・日向市・美郷町、【和歌山県】橋本市、
【奈良県】五條市



どうぶつ基金病院（福岡）の開院式の様子

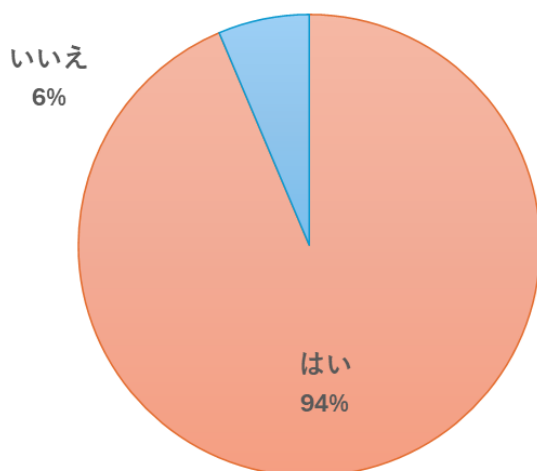
TNR地域集中プロジェクト 評価

3. プロジェクト 評価

3-1. 参加した自治体へのアンケート実施

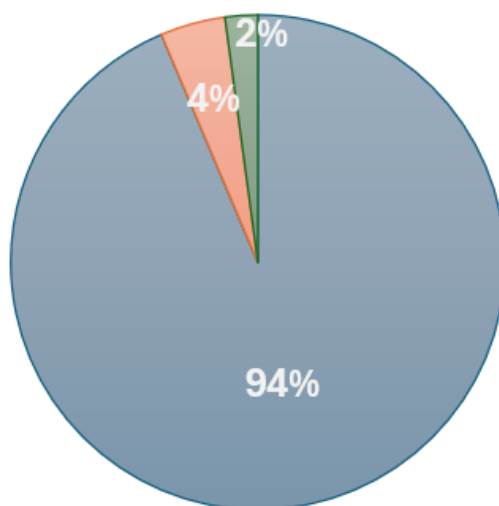
2024年10月、「TNR地域集中プロジェクト」に参加した47の協働行政にアンケートを実施しました。本プロジェクトが実施地域のTNR推進にどのように貢献したかを推し量るため、プロジェクトの評価、プロジェクト終了後のTNRの進捗状況、独自に行っている取り組み等について聞いています。

■プロジェクトを通して、地域のTNRへの理解は進んだと思うか



地域のTNRへの理解が進んでいない、と回答したのは47行政中3行政でした。プロジェクト期間中の実施状況（半年しか参加していない、TNRを実施していない）から実感がないケースのほか、活動をしていることによって猫の遺棄が増えたと感じているという回答がありました。

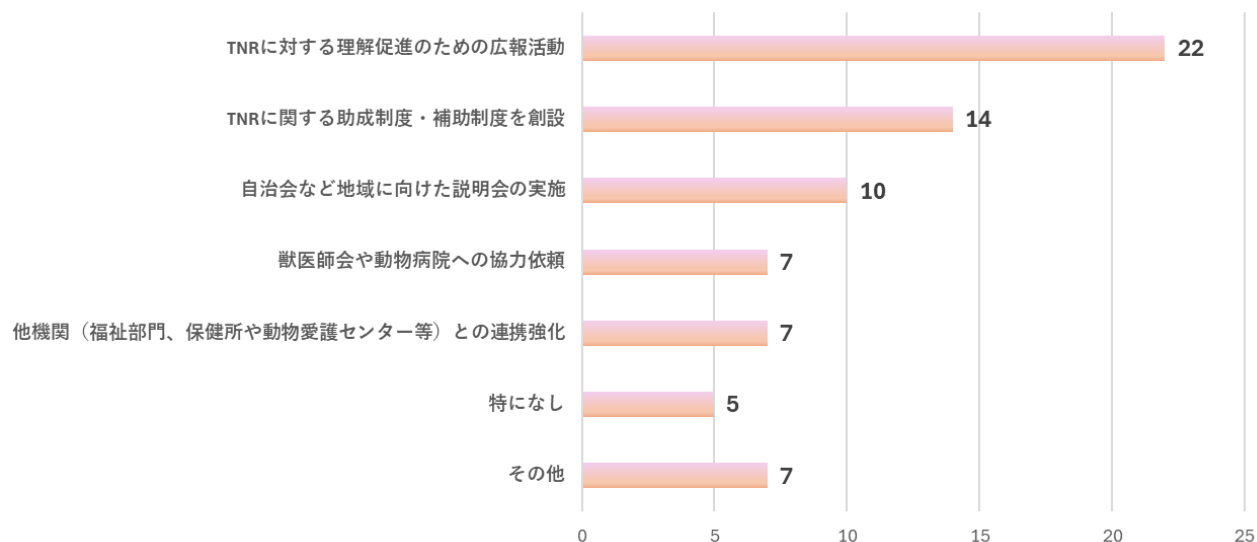
■「TNR地域集中プロジェクト」終了後のTNR進捗状況について



- プロジェクト終了後も順調に進んでいるがまだTNRが必要な猫がいる
- プロジェクト終了後も順調に進み地域内のTNRがほぼ完了した
- プロジェクト終了後はTNRが思うように進んでいない

3. プロジェクト 評価

■プロジェクト実施期間中または終了後、独自に行った・行っている取り組みについて (複数回答)

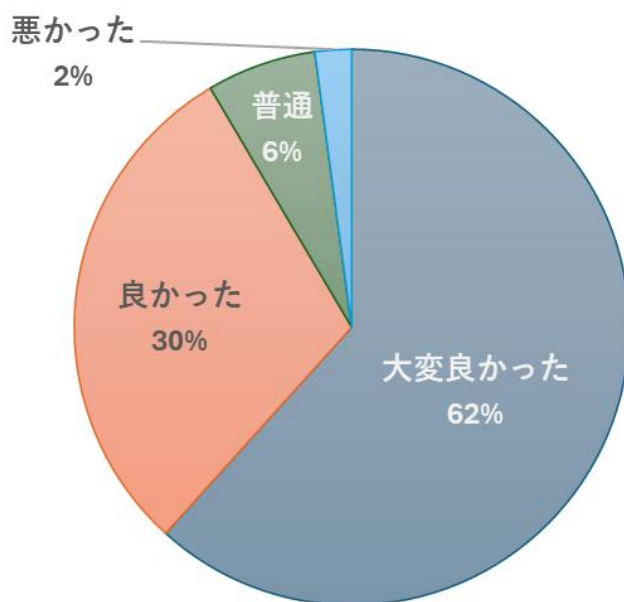


その他の回答でもっとも多かったのは、地域猫活動・TNR活動への補助・助成制度の創設や既存の制度の補助金・助成金の増額でした。それ以外には「保健所からの情報提供等の協力体制構築」「TNRが必要な地域の情報収集体制を強化」「ボランティアとのつながり強化」等があげられました。



3. プロジェクト 評価

■「TNR地域集中プロジェクト」の評価



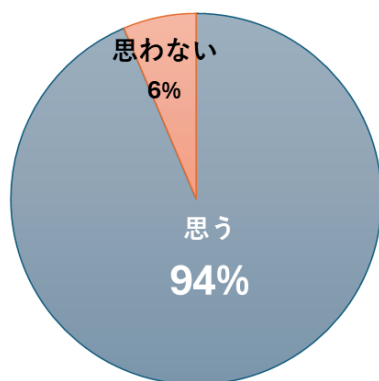
プロジェクトに参加した協働行政の92%が「大変良かった」「良かった」と評価しています。高い評価につながった理由は、やはり「多数の猫が一度に不妊手術を受けることができ、スピード感のある対策ができた」という点でした。そのほか「地域のボランティアの連携が進んだ」「自治会や振興会と意見交換ができるようになった」「飼い主のいない猫に関する苦情の件数が減った」「住民に具体的な解決策を提示することができるようになった」等が理由として挙げられました。

「悪かった」と回答した理由については、取り組みのサポートができるボランティア団体がない状態で、予算も人材も十分に用意できない自治体ではこのプロジェクトを活かすことができなかった、という報告がありました。



3. プロジェクト 評価

■このような取り組みを再度実施してほしいと思うか



最後に本プロジェクトのような取り組みを再度実施してほしいと思うかを聞いたところ、94%の協働行政が「思う」と回答しています。

「思わない」とした理由を尋ねたところ、「TNRが必要な地域が減少した」「恒久的な取り組みではないため、プロジェクトに依存しすぎてしまうことの弊害が想定される」といった回答がありました。

■プロジェクトに対する感想

- 現場の獣医師やスタッフ、ボランティアの方々の猫に対する熱量がすごかったのを覚えている。ぜひ、また実施していただきたい。
- 飼い主のいない猫の活動支援への大きなきっかけを、本プロジェクトに作ってもらったことを感謝している。現在はこのプロジェクトに参加したボランティアが中心となり、引き続き市と協働してTNR活動を行うことができている。多頭飼育救済支援を行う過程でも、本プロジェクトでの経験が生かされているものと感謝している。
- プロジェクトのおかげで福岡県は少しずつTNR事業が拡がりつつあるが、政令都市の福岡市や北九州市なども含めた県内全体の連携体制が必要と考えている。
- プロジェクトでは、不妊手術をしてもらう以外に、職員やボランティアの情報交換、学びの場としての大きな効果があると感じた。自治体への啓発活動という側面も大きいと思う。
- 自治体や愛護団体等でだけでは救いきれない数の現場が各都道府県にある。そんなところを1箇所でも少なくするためにこういったプロジェクトが必要だと思う。
- 他県から参加していたが、ぜひ自分たちの県でもやってほしい。
- 今回のような取り組みが実施されると受け皿が大きくなり、それはとてもありがたいが、プロジェクトは期間限定なのでいずれ協力病院での実施に移行することになる。本市では既存の協力病院での手術で何とか対応できているが、期間限定のプロジェクトは、TNRを渴望している地域で実施すると効果的なのは、と感じた。
- TNRは地域の人にとっても助かる事業であるため、機会があれば今後も実施してほしい。

TNR地域集中プロジェクト 総括

4. プロジェクト 総括

■プロジェクト総括

「TNR地域集中プロジェクト」の目的は、どうぶつ基金の協力病院がない、もしくは不足している地域でどうぶつ基金自らが病院を開設し、TNRを集中的に行うことによって、殺処分ゼロの実現とTNRに対する地域の理解を促進することでした。猫の殺処分数ゼロについては道半ばですが、TNRの重要性や効果についてはすべての地域で一定の理解を得ることができたと考えています。本プロジェクトでは、TNRの経験豊富な獣医師が数多く参加し、どうぶつ基金が長年にわたって構築してきたTNRに特化した現場のオペレーションによって、猫にとって安全・安心な不妊手術がスピーディに行われました。2年間で11,848頭という実績は獣医師、スタッフ、地元自治体、地元ボランティアの協働によって得られたものであり、その効果は殺処分数や幼齢個体の引き取り数といった数値だけではなく、野良猫に関する苦情の減少などにも表れています。



しかし、本プロジェクトを通じて見えてきた、というよりあらためて強く感じた課題があります。それは「飼い主のいない猫の問題を解決するには自治体の本気で取り組むことが最も重要である」ということです。

2年にわたって4地域で実施された本プロジェクトですが、終了後の各地の状況は大きく異なります。例えば、熊本市は候補地として手を挙げた時からプロジェクト終了後の自走＝市による無料不妊手術の実施を目指し、動物愛護センターの行政獣医師が不妊手術の手技を学ぶことを望んでいました。1年間研鑽を積み、プロジェクト終了後の2023年度から市独自の無料不妊手術が実施されており、その頭数は年間2,000頭を超えています。

宮崎は、宮崎県動物愛護センターが自ら「さくらねこ無料不妊手術事業」に参加し、どうぶつ基金と協働して「TNR先行型地域猫プロジェクト」を実施していますが、県内に協力病院が増えず伸び悩んでいます。福岡も同じ状況であり、プロジェクト終了後は急速にTNRのスピードが鈍化しているのが実状です。

こういった動向も踏まえ、大阪では無料不妊手術チケットの申請者を協働行政のみに限定し、自治体のTNRへの取り組みを促すとともにボランティアとの連携を働きかけています。

4. プロジェクト 総括

■今後に向けて

今後、殺処分ゼロの実現に向けて必要なアクションは以下の3点だと考えます。

- TNRを今以上に推進すること
- 全国で官民協力の体制づくりを行うこと
- 動物愛護法による飼い主への適切な指導

過去何十年にわたって殺処分を続けてきた今も、飼い主のいない猫に起因する問題は解決していません。猫の殺処分をどれだけ行っても、猫の繁殖力に追い付くことはありませんでした。殺処分を続けることが無意味であることは明らかであり、繁殖制限によって将来的に頭数を減らすTNRこそが、動物愛護意識が高まる現代における最善の解決策だと考えます。

飼い主のいない猫の問題は地域の問題であり、決して「餌やりさん（飼い主のいない猫に餌をあげてお世話している人）」の問題ではありません。未だに、野良猫への餌やりが「悪」であり、野良猫が増える原因であるかのようにとらえている自治体があります。しかし、至極当然のことですが、野良猫は餌をやるから増えるのではなく、不妊手術をしないから増えるのです。

では、野良猫に餌をやっている人が不妊手術を行うべきなのか？

答えは「いいえ」です。飼い主のいない猫の問題が地域の問題である以上、それは自治体が行うべきというのがどうぶつ基金の考え方です。

猫を取り巻く問題とは？



発情期の鳴き声による騒音

▶ 不妊手術をすると発情鳴きがなくなる



多頭飼育崩壊

▶ 不妊手術して頭数制限する



糞尿や不衛生な置き餌の衛生管理

▶ 不妊手術をするとスプレー行為がなくなり、管理しお世話する人がいればきれいになる

さくらねこTNRで問題解決

4. プロジェクト 総括



TNRを成功させるには官民協力が不可欠です。餌場に何頭の猫がやってくるのか、そのうち未手術の猫が何頭いるのか等の情報を提供してもらうことから始まり、猫の捕獲や病院への搬送、元の場所に戻した後の猫の管理、新たに流入した猫の情報提供等、TNRを実施するにあたって「餌やりさん」の存在は心強い味方となります。

一方、ボランティアにとっても行政の存在は大きく、地域住民への説明や現地調査等、民間のみでは対応が難しいこともあります。そういった場合に自治体が率先して対応してくれると、活動への地域の信頼を得ることができ、場合によっては地域住民の中から協力者が現れることもあります。

双方が持っている知識やノウハウを共有し、ともに地域の問題を解決するパートナーとして協働することが当たり前となるよう、今後も事業を通じて双方に働きかけていく必要があると考えています。

また、飼い主のいない猫を減らすためには、飼い猫対策は避けて通れません。野良猫が増える大きな要因として、飼えなくなったからと安易に捨てる、引っ越し先がペットNGのため置き去りにする、不妊手術をせずに室外に出す、多数の猫を劣悪な環境で飼育する（多頭飼育崩壊）等、適切な飼育をしていない飼い主に起因するものが数多くあります。このような飼い主に対して、法律に則って指導を行うのは自治体の役割です。この点についても、多頭飼育救済支援の事業を通して積極的に働きかけを行っていきます。